WASEDA ALUMNI
SINCE 1885

早稲田大学校友会
佐倉稲門会会報

稲門佐倉

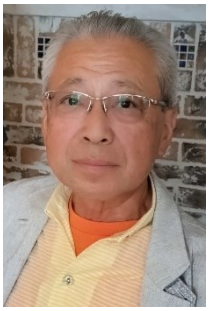
第38号



創立40周年記念　定期総会

未来へつなぐ佐倉稲門会の絆

会長　森山　泰充（1973政経）



佐倉稲門会は1986年10月18日の創立から40年の節目を迎えました。

屈託なく付き合う人間関係と和気あいあいとしたつながりを継続できているのは、会員同士が心豊かに楽しく築いた40年間の歩みを示しています。

創立時から続ける地域の文化向上寄与が目的の「ふれあいコンサート」、1994年から定例化した「里山散策と野草を食べる会」、開催13回を重ねた「佐倉稲門会・佐倉三田会合同講演会」、2001年から始めた「中山競馬場特別来賓室競馬観戦」、そして「早稲田スポーツ応援」「新年会」ほかのイベントや９つの同好会での交流でとても盛り上がっています。

3月15日開催「クミコ　コンサート」は役員と会員が一体となった運営と地域のご支援により成功裡に終わりました。次のステップアップに役立たせる「40周年記念誌」（56頁）も皆さまのご協力を得て6月1日刊行。6月14日開催「定期総会」は早稲田大学菊池理事ほかの来賓を含めて70名、和太鼓サークル学生も一緒に84名で盛大に40周年を祝いました。花川宏第3代会長、髙橋輝久第4代会長、松平武史第5代会長、竹鼻始第6代会長が揃って出席、これまでのご貢献に敬意を表することができました。昨年に続き「さくらあったか食堂ネットワーク」に寄付、社会福祉活動を支援しました。

いま日本は50歳が真ん中の社会です。人口構造変化を把握する指標として用いられている、全人口を2等分する境界年齢「中位数年齢」が50年前は30歳だったのが、長寿化により今や50歳。60歳代や70歳代はまだ人生の折り返しの年代、そして「いくつになっても、今日がいちばん新しい日」(日野原重明)です。

この5年間で25人の方が佐倉稲門会に入会されましたが、会員の平均年齢はこの間に4歳高齢化したと推定しています。会社定年が延長されている今、若い世代の校友にも是非気軽に私たち元気な仲間の輪に加わって、世代を越えた出合いや交流を楽しんでいただきたいと思います。そのためにもワセダの絆を大切にして、笑顔のコミュニケーションが弾む、そして時代に応じたスタイルの佐倉稲門会であり続けるよう努力して参ります。



40周年記念誌
表紙絵　山口千鶴子さん





40周年記念総会
左）魁響の演奏　右）校歌斉唱



クミココンサート
終演後役員たちと懇談

2026年度行事・創立40周年記念定期総会



３月には「クミコ　コンサート」を開催し、満席のお客様から好評をいただくことができました。
次回コンサートは、会場の改修工事が予定されている関係で、来秋の開催を計画しています。
今年度も既に実施した行事で、会員の皆さんの多くの笑顔を拝見することができておりますが、10月以降も、楽しい行事を数多く予定していますので、是非、ご参加ください。（幹事長　河野　俊昭(1973法)）

	佐倉稲門会行事		大学校友会・県支部活動	
4月	4日 19日 29日	中山競馬場特別来賓室競馬観戦 早慶レガッタ応援観戦 里山散策と野草を食べる会		
5月	31日	野球早慶戦応援観戦		
6月	14日	定期総会		
9月	26日	中山競馬場特別来賓室競馬観戦		
10月			18日	稲門祭
11月	8日 23日	野球早慶戦応援観戦 ラグビー早慶戦応援観戦	29日	千葉県稲門祭
1月	3日 下旬	箱根駅伝応援観戦 新年会		
2月	23日	佐倉稲門会・佐倉三田会合同講演会	21日	佐倉/習志野/八千代 稲門会合同若手の会
3月	下旬	花見会（もしくは４月上旬）	21日	千葉県支部コンサート











＊上記の会行事のほか、同好会活動が定期的に実施されています。
ご興味のある方は11ページ同好会連絡先にご連絡ください。

佐倉稲門会創立40周年記念定期総会が開催されました

6月14日(日)、ウィシュットンホテルユーカリにおいて、佐倉稲門会創立40周年記念定期総会が、森山会長以下会員58名、来賓12名、計70名の皆さんにお集まりいただき盛大に開催されました。総会開始前にこの一年間に逝去された会員のご冥福を祈り黙祷を行ないました。

第1部定期総会では、御来賓を代表して早稲田大学理事法学学術院・菊池馨実教授のご挨拶を頂いた後議事に入り、諏訪議長の下、全ての議案が滞り無く満場一致で承認されました。

第2部では、早稲田大学人間科学学術院・松居辰則教授に「貢献の早稲田の司令塔GCCの目指す人間的力量教育のビジョン」について講演いただきました。

第3部懇親会では、まず早稲田大学公認サークル「魁響(さきがけひびき)」12名による力強い和太鼓演奏が披露され会場全体に響き渡る太鼓の音で大いに盛り上がりました。その後料理、お酒を楽しみながらの懇親となり、楠原さん指揮によるエンディングの校歌斉唱まで、創立40周年記念に相応しい熱気あふれる総会となり、懇親会の時間が短すぎるとの意見をいただくほどでした。（福田　幸一(1982法)）







新入会員紹介

柏原　俊之さん
(1982社学)



このたび入会させて頂きました宮小路町在住の柏原です。よろしくお願い致します。

学生時代は体育会航空部に所属し、一年の1/3は滑空場(飛行場)でグライダーを飛ばし(自分も飛んで)1/3はバイトや部の業務に明け暮れるような生活でした。自家用操縦士と二等航空整備士の資格を取って、今でも千葉県野田市の滑空場や茨城県稲敷郡の飛行場で飛行したり整備のボランティアをしたりしています。(小さいけれど航空機なので、毎年自動車の車検にあたる耐空検査を受けなければなりません)

仕事は商社で通信機を扱ったりIT系SEだったり、エンジニアと営業の中間にあたるような仕事を渡り歩きました。直近の7年程はドイツ製バイオマス発電の木質ガス化装置や発電機の運転指導や定期点検の仕事をしています。有難いことに65歳過ぎてもお呼びが掛ります。

生まれは鹿児島(父母の郷里)ですが、父の仕事の関係で日本各地を転々とし、高校以降は30年程千葉市に居ました。佐倉には移り住んで19年になり、歴史有る街並み、秋の大祭など、満喫しております。

尚、技量維持の為もあって、小型飛行機(セスナ)でも飛行しています。600m程度の割と低い高度で飛びますので旅客機とは違った風景が見られます。佐倉付近のフライトも可能ですので、同乗ご希望の方はご一報下さい。(費用は保険代1000円程度です。)

関　登志彦さん
(1980法)



関　登志彦です。小さい頃からゲーテと政治が好きで当時住んでいた船橋の中学校で生徒会長を務めておりました。また、県立千葉高等学校でも生徒会再建の会代表も務めており、当時の県立船橋高等学校の生徒会長とお話しする機会もありました。もちろん、野田元首相は当時の船橋高等学校で、私より１年下の学年に在籍されておりました。

大学時代は行政法の佐藤英善教授のゼミに参加し、先生はその後ラクビー部長に就任されました。また、サークルは明治時代、足尾銅山事件で有名な田中正造を早稲田大学の学生が支援する形で集まった伝統ある「政治経済攻研会」に参加し、主に政治コースを選択し、丸山真男、神島二郎、ロック、ウエーバー、マルクス、ハナ・アレントなどを読んでいました。

就職した千葉県庁では総務部、企画部、農林部、社会部、教育庁等と幅広い仕事したのですが、特に印象深いのは財政課とマスコミ対応の報道の仕事です。

佐倉市には昭和５４年から住んでおります。昨年８月に母を市内の有料老人ホームに入所させ、現在は妻と二人の生活です。

最後に稲門会は人生最後の舞台だと思っておりますので、皆様と仲良く過ごしていきたいと思っております。



新入会員紹介

中川　雅彦さん
（1984教育）



生粋の早稲田人です。13歳から22歳までの10年間早稲田の地で学びました。そして結婚後30年以上城下町佐倉に住んでいますから、「佐倉稲門会」との出会いは必然だったように感じています。

昨年末に臼井ハーモニーホールでの入会説明会と懇親会に参加し、森山会長はじめ中心メンバーの皆さんのお人柄に触れ、魅力あふれる様々なイベントに継続して参加することになります。1月の箱根駅伝・2月の百人一首講演会・3月の寄席・4月の中山競馬場特別来賓室・6月の総会と回を重ねるたびに新しい知りあいと知見が増え、2月と3月に参加させていただいた妻も羨ましがっておりました。

早稲田卒業後の43年間、千葉県の公立高校で世界史と政治経済を教えています。この夏年金をもらえる年齢になったのですが、昨今の世界情勢と日本の政治状況を見るにつけ、教師を辞めるにやめられない気持ちです。Ｔ・Ｓ・Ｐが世界を動かしており、中でも最も知性を感じないＴにべったりのＴ政権。私たちには21世紀から22世紀を生きる子や孫世代が、楽しい人生を送れる世の中を準備する責務があるように強く感じています。

「進取の精神、学の独立」を心に秘めた早稲田の先輩との出会いは、10年後20年後の人生の指針となっています。歴史ある佐倉の地に住み、品性と気骨ある稲門の皆さんと色々語らっていくことが楽しみです。どうぞよろしくお願いいたします。

平岡　雪雄さん
（1984文修）

佐倉に住んで40余年。昨年はじめて入会のご案内が届いていろいろな同好会、催しが活発に開かれていることを知りました。中でも我が家のすぐそばのシルクで毎月カラオケ同好会が開かれており、下手の横好きの歌ですが稲門の仲間と集い楽しめるのはいいなと思い、やや不純な動機ですが入会しました。前々から同じ町内の先輩の澤谷さんから声をかけていただいていたのですが、長い年月をかけて佐倉稲門会に到達した次第です。

カラオケ同好会には澤谷・松平さんが所属しており、両氏があの「なべの会」の創始者であることを知り驚き感嘆した次第です。里山散策にもはじめて参加させていただきました。

自己紹介するほどのこともないのですが、今回入会の懇親会で身内に早稲田マンがごろごろいることに気づきました。

明治生まれの父は法学部、兄は政治経済学部、私と連れ合いは教育学部の教育心理、長女は同じく英語英文、次女は国際教養学部第一期生、姉の連れ合いは商学部、兄の息子（甥っ子）は法学部と計八名で数だけは自慢できそうです。「早稲田に入れ」という家訓があるわけではないのですが身内だけで稲門会が開けそうです。因みにもう一人の甥っ子は慶応です(😂)

今年で後期高齢者、佐倉稲門会とともに有意義な時間を過ごしたいと思っております。

その他の新入会員（お名前のみ紹介）
高木　優子さん（1990教育）
淵田　正嗣さん（1995商）
三須　照久さん（1981教育）

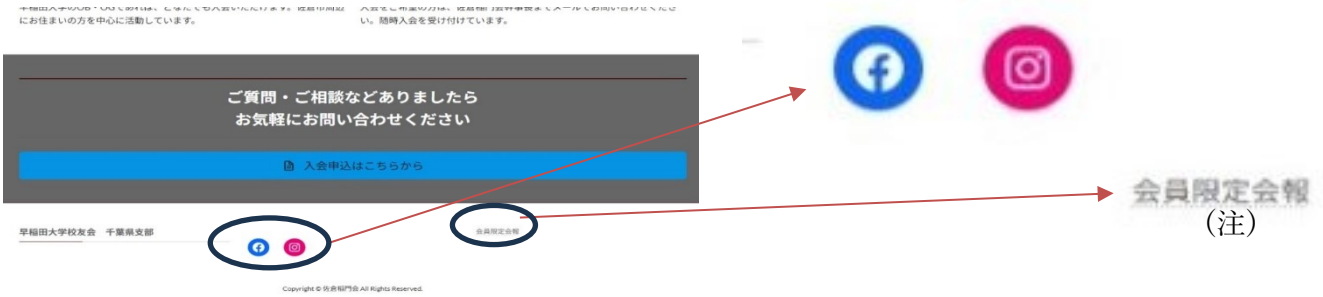


佐倉稲門会ＨＰとＳＮＳ

野村　知哉（1986年理工、HP/SNS担当）

佐倉稲門会は2025年にホームページ（HP）を刷新するとともに、フェイスブック（FB）・インスタグラム（インスタ）も開始しています。HPの最下段にアイコンがありますので気付かれている方も多いと思います。

HPとFB・インスタの相違は、**「情報の信頼性と公式な紹介」**を目的とする**静的な公式サイト**か、**「ユーザーとの交流や拡散」**を目的とする**双方向のSNS**かという点です。



（注）

ＨＰの特徴
主な目的: 企業・団体やお店の信頼性を高め、サービス内容を正確に伝えること（名刺やパンフレットの役割）
情報の流れ: 企業・団体からユーザーへの一方通行が基本

FB・インスタの特徴
主な目的: 顧客やファンとのコミュニケーション、リアルタイムな情報共有
情報の流れ: 「いいね！」やシェア機能を通じた双方向・拡散型

佐倉稲門会もＨＰではフォーマルな行事や報告を中心に掲載し、SNSでは毎月実施されている各種同好会の活動などを写真入りで紹介しています。
現在では現役世代中心にSNSは広く利用されており、SNSの広範かつ素早い情報発信（拡散）は、会員だけでなく新たな校友にも佐倉稲門会の活動を知ってもらうことで、入会のきっかけになることも期待されます。
現在佐倉稲門会のFB・インスタには月平均で400～500件のアクセスがあり、会員外からのアクセスも期待できますので、HP/SNS担当に皆様からの積極的な記事送付をお願いします。

（注意点）
FB、インスタを使うには自分のアカウントが必要です。作成にはそれぞれアプリをインストールし、アプリが示す手順に従って名前、メールアドレス、生年月日などの個人情報を入力する必要があります。
また、LINE（ライン）もSNSの一つで、わが国では最も利用者が多いと言われますが、こちらは基本的にスマホの電話番号だけで登録でき、特定のグループ内の連絡手段として、また佐倉市役所など公共機関や早稲田大学校友会でも広報・連絡手段として利用されています。

SNSは、既知の人だけでなく、未知の人たちともコミュニケーションできるツールであり、ここに利便性と同時に危険性や煩わしさを感ずる方もいるかもしれず、当然のことながら、その使用は各個人のご判断によります。



(注)なお、HP下段にはもうひとつ「会員限定会報」のアイコンがあり、会員の方はここから「稲門佐倉」バックナンバーが閲覧可能です。

40周年記念誌作成ばなし

稲葉　隆（1976政経）

佐倉稲門会創立40年を翌年に控えた2025年春、森山会長から40周年記念誌作成の構想が提示され、6月総会で方針が決定された。

森山さんは「なべの会」の55周年記念誌を発行した経験があり、その制作に携わったなべの会OBの朝日さんに今回もご協力頂くことになっているとのこと。朝日さんは「早稲田学報」などの製作にも関わっている編集のプロであり、これ以上心強い助っ人はいない。

具体的行動の第1歩は資料、写真集めである。資料は松平さん、澤谷さん、竹鼻さん、坂田さんなどから提供していただき、写真については8月20日、森山さん他数名で田中育子さん宅を訪問、ご所蔵のアルバムを拝借。その中から160枚ほどを稲葉が自宅で共有ファイル化した。

プロ仕様のスキャナやＰＣがあるわけもなく、ほどほどの大きさのファイルにせざるを得なかったのだが、プロのデザイン会社から見ると画質的に物足りないようで、後々までの懸念材料となった。

9月14日、我々佐倉稲門会編集委員＋朝日さん＋デザイン会社の第一回ZOOMミーティング（3者ミーティング）が行われた。稲門会編集委員（アマ）は本格的冊子の編集作業手順に不案内であり、デザイン会社（プロ）とは議論も正直あまり噛み合わなかった記憶がある。この違いはその後の3者ミーティングでも時折出てきたが、その都度朝日さんが間に入ってくれることで円滑に作業を進めることが出来た。

9月中旬以降各執筆者に依頼を行い、その際上述共有ファイルを参照できることをお伝えした。実は共有ファイルに初めて「田中アルバム」の名称が使われたのは、故大島信三さんの文中であり、共有ファイル化作業に携わったものとして、そのように活用して頂けたことには大変感激したものである。

依頼していた原稿もご執筆者のご協力により12月末にはほぼ出そろった。遅れてスタートした「佐倉稲門会へのエール」コーナーにも会員各位のご協力で沢山の声を頂き、年明けからは編集側の作業に移る。文書、写真などをページ毎にレイアウトしてデザイン会社に渡す姿（「ラフ」と呼ぶ）に加工する作業なのだが、これはほぼ朝日さん頼み。

ラフとその素材ファイルをデザイン会社に送り、デザイン原稿作成となるのだが、一定のブロック毎にページがそろわないとデザインに回せないので、ここで結構時間がかかる。懸念されていた一部写真の解像度不足対応や、AIで文字起こしした座談会の文字数調整など、なかなか詰め切れなかった箇所もあり、結局全てのラフをデザインに回したのは5月校了の直前だった。出版業界が登場するドラマでは大抵締切間際でのドタバタが描かれるが、それは現実のものだった。

何はともあれ、完成した40周年記念誌は、皆様に楽しく読んでいただけるとともに、佐倉稲門会の記録資料としても有意義なものと思っている。同時に私にはこの作業は、皆様とともに佐倉稲門会のタイムカプセルを開ける楽しい（？？）イベントのようにも感じられた。

デザイン会社からの当初デザインイメージ



デザイン会社に送った「ラフ」



大島さん追悼　稲門会への貢献に感謝

大島さんを偲ぶ　　会長　森山　泰充（1973政経）



大島信三さんが7月8日84歳で逝去されました。長年にわたって癌と闘っておられましたが、大島さんらしく最期まで気丈に穏やかで、そして静かに息を引き取られました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

大島さんは佐倉稲門会の草創時から本年までの長い間役員を務められ、監事は2018年まで14年間お願いしました。定期総会時の講演会講師を通算6回、会報「稲門佐倉」のコラムを第5号(1993年10月発行)から第30号まで26回連続寄稿など、佐倉稲門会愛を発揮されました。そして何より佐倉稲門会のイベントをとても楽しんでおられました。体調がすぐれない中を6月14日開催の40周年記念定期総会に出席されましたが、お元気に皆さんと会話をされて懇親会も堪能していただけたのが救いです。

新潟県立村上高校から1964年教育学部卒。産経新聞社では「週刊サンケイ」編集長、「新しい住まいの設計」編集長などを経て「正論」編集長を歴代最長の16年間務められました。巻末の数十頁に及ぶ読者投稿欄と、編集長インタビューなどで部数を伸ばし、当時の論壇誌のトップに押し上げられました。産経新聞社編集委員・特別記者(局長待遇)としてもご活躍、退職後も執筆活動を継続されて著書も多数、亡くなる直前までパソコンの前で新テーマの構想を練っておられました。

ここに追悼の記事を掲載することにより、佐倉稲門会発展へのご貢献にあらためて感謝申し上げる次第です。

大島さん講演会実績

回	講演日	演題
1	1992/7/4	政局と人間模様
2	1993/7/25	選挙後の政局・首班の行方
3	2004/6/19	金正日ファミリーの内幕
4	2005/6/18	中国共産党政権の栄光と悲惨
5	2007/6/16	ニュースの表と裏
6	2015/6/13	一強多弱体制の権力構造と次期首相候補を読む

大島さん著書



コラム「稲穂」に残る大島さんの思い　　稲葉　隆(1976政経)

「コラム」は新聞の「顔」とされ、多くはベテラン編集者が執筆する。もうひとつの顔である「社説」の「公式の（固い）顔」に対し「笑顔」と言われることもあるようだ。

「稲門佐倉」はいち地域校友会の会報に過ぎないが、そのコラムは正真正銘プロの筆によるものだった。1993年の5号から2019年の30号まで実に26年26回に亘り、コラム「稲穂」は正論編集長、産経新聞編集委員として活躍された大島信三さんにより執筆された。

大隈重信侯の観察眼による大久保利通と岩倉具視の関係（5号）、キャンパスの桜に重なる氏と早稲田志望生とのふれあい（6号）、校歌「都の西北」の力（7号）と始まり、早稲田は「中退」もれっきとした資格(10号)、小渕恵三とロバート・ケネディの因縁（12号）、大隈講堂は不動のシンボル(20号)、竹下登の聞き上手（22号）、大隈庭園の話(25号)などなど、博識と軽妙な文章に早稲田愛が溢れる名コラムを憶えている諸先輩も多いのではないでしょうか。

「稲門佐倉」は長らく白黒の新聞調だった（個人的には大島さんの「稲穂」はこれが実に似合っていたと思う）が、30号からカラー印刷に変わった。大島さんはその30号に「「稲穂」余話」を執筆し、コラムの筆を置かれた。そこには改めて、佐倉稲門会への大島さんの暖かな思いが記されている。

※過去の「稲門佐倉」の閲覧については6ページ（注）をご参照ください。

大島さん追悼　稲門会への貢献に感謝

追悼　大島信三さん　　髙橋　輝久(1964法)

突然のお別れになるとは思いもよらぬことでした。大島さんは、１００年時代を共に歩むであろう、まぎれもなく大事な友人でした。

彼は「いつかやる・・」と先延ばしをする人ではなく、人生やりたいことあればやるべしと人にも言い、自身手堅く実践してきた人、無駄なくキッチリと人生を送った人であろうと思う。いつも何かを追い求めていた、現在進行形の人であった。執筆活動を続け名著「パリ２０００年の歴史を歩く」をはじめ何冊もの著作がある、その傍ら茶道を愛し、謡曲を嗜み、俳句を詠ずる、その俳句はその時々彼の人生の心の悠揚を見るようである。

「芋煮会むかし昔の夢の中」　　「草笛やガキ大将は八百屋の子」
「風神に召されひらひら紅葉散る」　　「天昇る友を見守れ雪柳」
「ほんわかと足の先まで干し蒲団」　　「バスを待つ頬にひんやり涅槃西」

文章の達人である彼は、文は「余白」が大事であると云う、この言葉は世阿弥の言う「せぬ間」或いは舞や謡の「間」に通じる事かと思う、とても興味深いことなのである。

この「余白」が或いは「間」が想いを広げ、働き、余韻を残すのです。

奥様のお話によると、彼はひそかに想いを練っていること、何かやりたいことが一つあったようなのである、謂ってみれば「余白」を一つ残したようなのである。それが何なのかを思うところに彼がいて、偲ぶことができるのではないかと思う。

「鬼灯の花咲き思慕の不意に涌く」

彼は自分の残り時間を悟ったのか、実に常人には及びもつかぬ見事な動きをしている、身辺の手仕舞をする。奥様と温泉に行く、大好きな稲門会の総会に出席しさりげなく皆に挨拶をする。愛してやまない稲門俳句会にもまさにぎりぎりお別れメールを送る。七夕の短冊に「幸せあれ・・」とのメッセージを残す。そして看取る家族に「もう逝くのかな」といいつつ、気丈に穏やかに永遠の旅だちである。彼も精進した謡曲の一節「光と共に白妙の白雲に打ち乗りて西の空に、行き給ふありがたくこそは覚ゆれ」、堂々の人生であったと思う。

「厳かに天寿全う夏の果」　　「雲の峰君の名の無き句会かな」

大島さんとの思い出　　松平　武史(1968商)

初めて大島さんを意識したのは私が入会した最初の総会、１９９２年の総会で、講演された内容は何であったか忘れましたが、あの訥々とした語りで話された時です。

その後、総会の講演を５回も引き受けて頂き、「ここだけの話ですが」と言いながら私など到底知り得ない政界の裏話などを面白可笑しく話されました。講演者が見つからない時の大島さん頼りはとても有難かったと思っております。

これとは別に、４０周年記念誌で語られております様に、月刊誌「正論」の編集長として現役バリバリの多忙な時期ではありましたが、会の色々な行事に奥様共々参加されておりました。特に、３０年以上前には記念誌にある桝山、川口、古谷などの個人の自宅で行われた食事会、麻雀、アカペラの歌合戦などは今思い出しますととても楽しかった懐かしい思い出になっております。最近は俳句の会でご一緒しておりましたが大島さん独特の詠み方に触れられないと思うととても残念です。

「秋深し惜しまるる人星になり」

新年会

恒例の新年会は、1月31日（土）に勝田台の仏蘭西料理店「貝殻亭」で、6組のご夫婦を含め総勢45名の参加により盛大に開催されました。

河野幹事長による森山会長挨拶代読で開会、佐倉市出身で「ばらのピアニスト」としてご活躍中の「水藤晶」さんのピアノ演奏でショパンやドビュッシーなどの優雅な調べに耳を傾けました。

竹鼻顧問の乾杯で懇親会がスタート。おいしいワインと仏蘭西料理に舌鼓を打ちながらの楽しい会話があちらこちらで弾んでいました。待ちに待った抽選会では、山口千鶴子さんご提供の「馬」の絵、柏原さん他会員の方からご提供の品々、早稲田グッズ等、例年よりも大勢の会員に新年の福が届けられました。



最後は、例年と異なり水藤さんのピアノ伴奏で「昴」を合唱、楠原幹事リードの校歌斉唱、諏訪副会長の閉会挨拶、一同の記念写真撮影でお開きとなりました。佐倉稲門会創立40周年の先駆け行事として大いに盛り上がった新年会でした。（脇谷　義朗(1982商)）

ふれあいコンサート

本年3月15日にシャンソン歌手のクミコさんをお迎えして、第28回ふれあいコンサートを開催しました。ふれあいコンサートは、佐倉稲門会が主催し、佐倉市の共催を得て行う、地域の皆さまと共に音楽を楽しむ機会を提供するものです。

今年も、役員・元役員・会員および奥様方のご協力、また近隣稲門会や佐倉三田会のご支援もあり、チケットを完売することができました。

クミコさんの3回目となるコンサートでしたが、その美声は観衆を魅了し、ご来場の皆様からのアンケートにも「歌声が素晴らしかった」「ステージでの語りが良かった」という多数の声のほか、「アンコールでの『都の西北』はうれしかった」等の声が寄せられました。また、コンサート後のサイン会にも長蛇の列ができました。



写真は、実行委員全員でクミコさんを囲んで撮影したものです。

次回は、2027年9月に開催の予定です。皆さまのお越しをお待ちしています。

（茶野木　力(1980法)）

さくらあったか食堂ネットワークへの寄付

佐倉稲門会では、昨年度に初めて「佐倉市社会福祉協議会」を通じて、「さくらあったか食堂ネットワーク」へ寄付を行いました。これは、市内の社会福祉活動を支援することを目的とし、善意銀行金銭指定預託制度を利用したものです。



本年度は６月24日に佐倉市社会福祉協議会を竹鼻顧問、河野幹事長、脇谷が訪問し、竹鼻顧問からネットワーク青木小百合代表へ寄付金10万円をお渡ししました。青木代表からは丁重なお礼の言葉とお礼状を頂いて参りました。

このネットワークは、佐倉市内のこども食堂・地域食堂を繋ぎ「食を通じて、こどもたちが、こどもをよく見てくれる地域の大人たちと出会える場づくり」を目指しており、市内には25のこども食堂・地域食堂が活動中です。（脇谷　義朗(1982商)）

同好会連絡先・活動紹介

さまざまな同好会が活動中です。気軽にご参加ください。

No	同好会名	連絡先	活動内容
1	ゴルフ同好会	幹事　岩崎　健一 kmttr6241@i.softbank.jp	4月　千葉県下稲門会親睦ゴルフ 5月　千葉県北総地区稲門会親睦ゴルフ 11月　千葉県北総地区稲門会親睦ゴルフ 11月　佐倉三田会・佐倉稲門会親睦ゴルフ 12月　佐倉稲門会親睦ゴルフ 多くの皆様のご参加をお待ちしています。
2	とうもん・さくら俳句会	幹事　髙橋　輝久 wa27534@bg7.so-net.ne.jp	毎月第三土曜日句会開催。 年に1回程度吟行も予定。 十数名（うち女性4名）の会員が各々のスタイルで俳句を楽しんでいます。
3	囲碁同好会	幹事　井澤　克彦 ky-izawa0511@catv296.ne.jp	4・7・9・1・2月佐倉稲門会囲碁大会 5・12月　四街道交流戦 6月　オール早稲田囲碁祭 10月　県支部囲碁大会 11月　佐倉三田会交流戦 初心者の方も大歓迎です。
4	麻雀同好会	幹事　河野　俊昭 toshikohno@future.ocn.ne.jp	「賭けない・飲まない・吸わない」の健康マージャンをモットーに、年4回（3月、6月、9月、12月）定例会を実施しています。女性雀士も活躍しています。定例会の他、春、秋に開催される千葉県の稲門会が一堂に集う交流会にも参加しています。
5	ハイキングクラブ	幹事　諏訪　吉春 y19511007@outlook.jp	4月　佐倉七福神巡り・総会 6月　弘法山ハイキング 10月　勝沼ぶどう郷ウオーキング 1月　浅草七福神巡り(各所の七福神巡り) ※軽いハイキング・ウオーキングを通して健康長寿。 随時企画して会員に案内を送ります。参加はご自由です。
6	お能を楽しむ会	幹事　髙橋　輝久 wa27534@bg7.so-net.ne.jp	9月27日観能会「通盛」開催し13名参加。観能後の懇親会も盛り上がりました。 不定期ですが、年に何回か企画する予定です。
7	カラオケ同好会	幹事　森山　泰充 yas.moriyama@splash.dti.ne.jp	毎月第3木曜開催、毎回16人前後で楽しんでいます。青春時代の歌唱曲や新たな挑戦曲などで会話も弾み、心身ともに健康を維持する効果抜群です。
8	寄席を楽しむ会	幹事　竹鼻　始 takehana5939@nn2.so-net.ne.jp	国立演芸場寄席公演の落語を中心とする観賞会を、年に1回程度開催しています。会場は江東区深川江戸資料館か、すみだトリフォニーホールです。
9	懇話会	幹事　村田　修造 murata-s@catv296.ne.jp	毎月第４日曜日に対面方式で開催。 会員の関心のあるテーマで報告してもらうが、現在は再開準備中です。

2026年度　役員一覧

役職	氏名（卒年・学部）
会長	森山 泰充（1973・政経）
副会長	諏訪 吉春（1974・商）　中村 勇（1985・社学）
幹事長	河野 俊昭（1973・法）
副幹事長兼 会計幹事	脇谷 義朗（1982・商）
副幹事長	稲葉 隆（1976・政経）　茶野木 力（1980・法） 福田 幸一（1982・法）　早川 誠貴（1996・政経）
監事	井澤 克彦（1967・理工）　松川 泰三（1975・政経）
幹事	村田 修造（1963・法）　和田 勇（1963・商）　宮武 忠博（1965・法） 中村 昭夫（1966・政経）　平野 萬司（1966・政経）　水野 昴（1968・理工） 岩崎 健一（1969・商）　河西 郁男（1969・教育）　古場田 憲和（1970・商） 小坂 泰久（1972・教育）　楠原 正人（1974・社学）　稲垣 寛孝（1976・法） 中森 徹（1978・理工院）　竹中 靖博（1979・法）　野村 知哉（1986・理工） 小林 慎一朗（2015・スポ科院）
顧問	花川 宏　（1954・理工）　髙橋 輝久（1964・法）　松平 武史（1968・商） 澤谷 英男（1968・商）　竹鼻 始　（1972・理工）

【早稲田大学】
≪商議員≫森山 泰充/諏訪 吉春/河野 俊昭　≪賛助商議員≫松平 武史/竹鼻 始

【早稲田大学校友会】
≪代議員≫脇谷 義朗/稲葉 隆/茶野木 力/福田 幸一/早川 誠貴
≪校友会本部幹事/財務委員≫早川 誠貴　≪賛助代議員≫松平 武史

【早稲田大学校友会千葉県支部】
≪副支部長 兼 事業委員長≫森山 泰充　≪名誉顧問≫松平 武史
≪支部幹事≫森山 泰充/河野 俊昭　≪副事務局長≫早川 誠貴
≪総務渉外委員≫稲葉 隆　≪組織委員≫茶野木 力　≪事業委員≫福田 幸一

編集後記

この夏から秋にかけて、佐倉市、酒々井町の近傍は何度も豪雨に襲われました。被災した皆様に心よりお見舞い申し上げます。

気象庁統計によれば「令和8年８月千葉豪雨」では、佐倉（気象台）において日最大1時間降水量97.0mmと観測史上1位を、日降水量も239.0mmと同3位を記録した。続く９月の台風25号では日降水量が278.0mmとなりこれも観測史上1位となった。2カ月の間に「観測史上初」が2回も出現したことになる。

どちらの豪雨でも、千葉県の広範囲で住宅の浸水、車の水没などの物的被害並びに人的被害が発生しており、8月豪雨では佐倉市でも死亡者が発生した。被災した方の辛苦は想像を絶するものがあるが、これら災害対応に当たった各役所の皆様もさぞや大変だったろうと思う。

豪雨の都度、「佐倉市公式LINE」からは警戒・避難指示、避難所開設状況、道路通行止めなど、実に頻繁に関連情報が届いた。中でも通行止めについては、経験を積む度、より早めに規制が敷かれ、よりリアルタイムに近い発信がなされていたように思えた。実は小生、25号台風の際に車で県外に出ており、台風通過直後の帰路で幾度も通行止め箇所を迂回しながら帰宅したのだが、その際はこのLINE情報が頼りだった。

温暖化が進行する中、気象災害は以前より一層身近なものになったが、災害時には適切な情報の入手が死活的に重要だ。そんな場面でのSNSの利用価値を改めて実感した次第である。

（稲葉　隆(1976政経)）

発　行　人：森山 泰充
編集委員会：稲葉 隆、茶野木 力、脇谷 義朗、福田 幸一、早川 誠貴
ホームページ：https://sakura-tomon.net/
HP